

「千葉市学校教育推進計画のあり方」（中間報告）

■ 「千葉市学校教育推進計画のあり方」（中間報告）に盛り込むべき内容

- 1 はじめに（懇話会会長より）
- 2 千葉市学校教育推進計画のあり方
 - (1) 千葉市学校教育推進計画策定の趣旨
－千葉市学校教育の更なる充実を求めて－
 - (2) 千葉市学校教育推進計画の位置づけ等
－今後10年先を見据えた千葉市学校教育の指針とするために－
 - 計画の位置づけ
 - 対象範囲
 - 計画の性格
 - 計画の期間
 - (3) 千葉市学校教育推進計画策定の視点
 - (4) 施策体系について
 - ①千葉市の目指すべき子どもの姿について
 - ②教育目標について
 - ③施策展開の方向について
 - 「確かな学力」の育成にかかる施策展開の方向
 - 「豊かな心」の育成にかかる施策展開の方向
 - 「健やかな体」の育成にかかる施策展開の方向
 - 「家庭・地域の教育力の向上」にかかる施策展開の方向
 - 「教育環境の充実」にかかる施策展開の方向
 - 「教師の資質向上」にかかる施策展開の方向
 - 「多様な教育的支援」にかかる施策展開の方向
 - 「学校・家庭・地域・行政の連携」にかかる施策展開の方向
 - ④施策体系
 - ⑤施策展開の方向と施策目標、取り組みの重点
- 3 その他（資料）
 - 「学校教育についての意識調査」結果の概要
 - 「懇話会」における協議資料

は じ め に

千葉県学校教育推進計画懇話会会長

明 石 要 一

千葉県学校教育推進計画懇話会では、平成19年8月29日に千葉県教育委員会教育長より、「千葉県学校教育推進計画のあり方」並びに「千葉県学校教育推進計画（案）」の2点からなる「千葉県学校教育推進計画について」の諮問を受けました。

第1年次に当たる本年度は、諮問事項の一つである「千葉県学校教育推進計画のあり方」を中心に、意識調査結果等から捉えた子ども、教師、保護者、市民の実態などをもとに、「千葉市の子どもの実態から見た課題」や、「千葉市の子どもたちに身につけさせたい力」などについて議論を重ね、将来を見通した本市学校教育の目的や、学校教育の充実に向けた取り組みの方向性などについて、様々な視点から検討を行ってきました。

また、少子高齢化や教育ニーズの多様化など、子どもを取り巻く社会状況等の変化や、本市のこれまでの学校教育の取り組みの成果と課題、教育改革に向けた国の動きなどを踏まえ、推進計画策定の趣旨及び計画期間・対象範囲といった「計画の位置づけ」等についても検討を加えました。

さらに、本市独自となる計画策定の視点をもとに、「千葉市が目指すべき子どもの姿」と、その実現に向けた学校・家庭・地域・行政の役割などについて審議を行い、ここに「千葉県学校教育推進計画のあり方」として、中間報告をまとめました。

今後、懇話会での議論を重ね、平成20年度末を目途に具体的な教育施策や施策評価等を盛り込んだ「千葉県学校教育推進計画（案）」について、提言を行ってまいりたいと考えております。

「千葉市学校教育推進計画のあり方」

（１）千葉市学校教育推進計画策定の趣旨 ー千葉市学校教育の更なる充実を求めてー

◇教育の果たすべき役割

少子高齢化や高度情報化社会の進展など、子どもを取り巻く社会状況が大きく変化している中、自らの能力を最大限に発揮し自己実現を図っていく力を培うとともに、豊かな心をはぐくむ上で、教育の果たすべき役割は一層重要になってきている。

さらに、国や社会が国際社会の中で持続的に発展していくためには、子どもが自ら考え行動する力や創造する力を育てるなど、新しい時代に対応した教育の充実・振興が求められている。

◇本市学校教育の取り組みと課題

本市では、平成12年度と13年度の2か年にわたって、「千葉市学校教育改革会議」を設け、平成14年度から実施された「完全学校週5日制」や「現行学習指導要領」への対応をはじめ、今後の学校教育の方向性についての検討を行った。その検討内容を踏まえ、「わかる授業・楽しい教室・夢広がる学校づくり」を目標として掲げ、子どもの「生きる力」をはぐくむための様々な施策を展開し、多くの成果を挙げてきている。

一方、学習意欲や規範意識の更なる向上、より質の高い教育環境の整備と充実、家庭・地域の教育力を一層生かした教育活動の展開、多様な教育ニーズへの対応、夢や希望をはぐくむ教育の振興など、今後取り組むべき課題も多い。

◇国の動向

また、国においては、平成18年12月に教育基本法が改正され、「家庭教育」、「学校・家庭・地域の連携協力」にかかる内容が新たに規定されるとともに、国や地方が総合的かつ計画的に教育施策を推進するための「教育振興基本計画」を定めることなどが規定された。

さらに、先般示された国による教育振興基本計画の答申素案では、我が国の教育をめぐる現状と課題を踏まえつつ、「今後10年間を通じて目指すべき教育の姿」などを明らかにし、「今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策」について提示している。

◇保護者・教師・市民の願い

こういった中で、「はぐくみたい千葉市の子ども像」として、「人を思いやる心を持った人になってほしい」、「目標に向かって最後まであきらめずに努力する子どもに育てたい」とする願いは、保護者・教師・市民の共通のものであり、力を結集し、その実現を図っていくことが求められている。

◇策定の趣旨

こうした保護者をはじめとした市民の願いや本市の学校教育の成果と課題、国の計画案に示された考え方を踏まえ、本市の学校教育等の更なる充実と発展に向けて、新たな教育の目標や方向性を明らかにするとともに、それらを実現していくための中・長期的な視点に立った計画を定めていく必要がある。さらに、先般示された新学習指導要領の中で、可及的速やかに取り組むべき事項については、計画への明確な位置づけを行っていくことが望まれる。

(2) 千葉市学校教育推進計画の位置づけ等

— 今後 10 年先を見据えた千葉市学校教育の指針とするために —

◇計画の位置づけ

施策の実行性や政策の一元化を図るため、本市の総合計画（ちば・ビジョン 21 及び 5 か年計画）の個別部門計画として位置づける必要がある。

また、生涯学習分野については、平成 19 年度策定の「千葉市青少年育成行動計画」のほか、既に個別部門計画が策定されていることや、策定に当たっては中・長期的な視点に立って策定すべきであることから、「千葉市学校教育推進計画」においては、その対象範囲及び性格、期間について、次のような基本的な考え方のもとに策定することが望ましい。

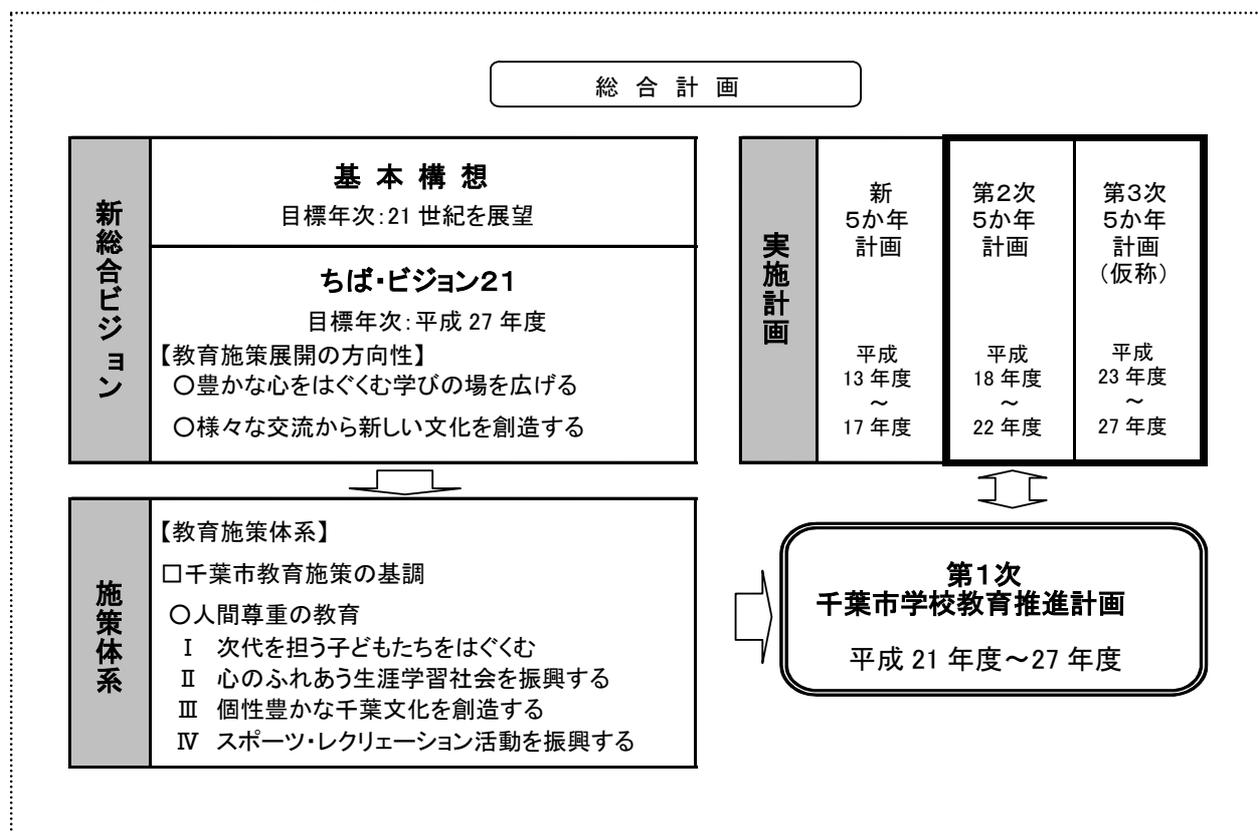
◇計画の対象及び性格

対象は、幼稚園、小・中・高及び特別支援学校の教育と、それに関連する重要施策とし、今後概ね 10 年先を見据えた子どもの姿を捉え、学校教育等の目指すべき教育目標・施策の方向性を定めた指針とするとともに、それを実現するための具体的な施策目標及び施策を示すものとする。

◇計画期間

この計画が中・長期的な視点に立った施策を明示するものであること、また、国が策定する「教育振興基本計画」の計画期間が 5 年間であることを踏まえ、原則として 5 年間とすることが適当である。但し、「ちば・ビジョン 21」の目標年次及び「千葉市第 3 次 5 か年計画（仮称）」の計画期間との整合を図る必要があることから、第 1 次の計画については、平成 21 年度を初年度とする 7 年間の計画期間とすることが適当である。

[千葉市総合計画との関連]



(3) 千葉市学校教育推進計画策定の視点

学校教育推進計画の策定に当たっては、今後の学校教育の目的達成に向けて、これまでに進めてきた取り組みの成果を的確に捉え、更なる深化・充実を図るとともに、子どもの姿や教師、保護者、市民の意識などに現れた様々な課題について、それらを克服し、補強していくといった方向性のもと、次のような点に留意して本市独自の計画づくりを進めていくことが大切である。

□ 市民の信頼と期待

市民の信頼と期待に応えうる教育計画とするために、「生きる力」の育成に向けた今後の学校教育等のしっかりとした目的や方向性について示すとともに、子どもと教師、保護者、市民の共有化が図れるようにすること。

□ 深化と充実

これまで千葉市が進めてきた「わかる授業・楽しい教室・夢広がる学校」づくりに向けた諸施策の展開は、本市学校教育の根幹ともいえるべき取り組みであり、多くの成果を挙げてきている。これをさらに充実させることにより、誰もが「千葉市で学んでよかった」・「千葉市で学ばせてよかった」と思える教育に結びつくような計画としていくこと。

□ 新しい時代への対応

高度情報化やグローバル化の一層の進展、少子高齢化の更なる進行など、子どもを取り巻く社会状況が大きく変化する中、子どもが将来への夢や希望が持てるような新しい時代に対応した千葉市学校教育の方向を示していくこと。

□ 施策の重点化

「知・徳・体」の育成など、バランスの取れた教育計画とするとともに、なかでも千葉市として、より力を注ぐべきものを「重点的に取り組むべき事項」として計画に位置づけ、その取り組みを強化していくこと。

□ 学びの保証

「教師は授業で勝負」といわれるように、教師が能力を十分発揮できる教育環境の整備を図ることにより、子どもの充実した学びを保証できるようにすること。また、特別支援教育等、様々なニーズに対応した教育の充実に向け、個々の学びを保証するための多様な教育的支援にかかる具体的な方策の策定と、そのための環境づくりにつながる計画とすること。

□ 連携の強化

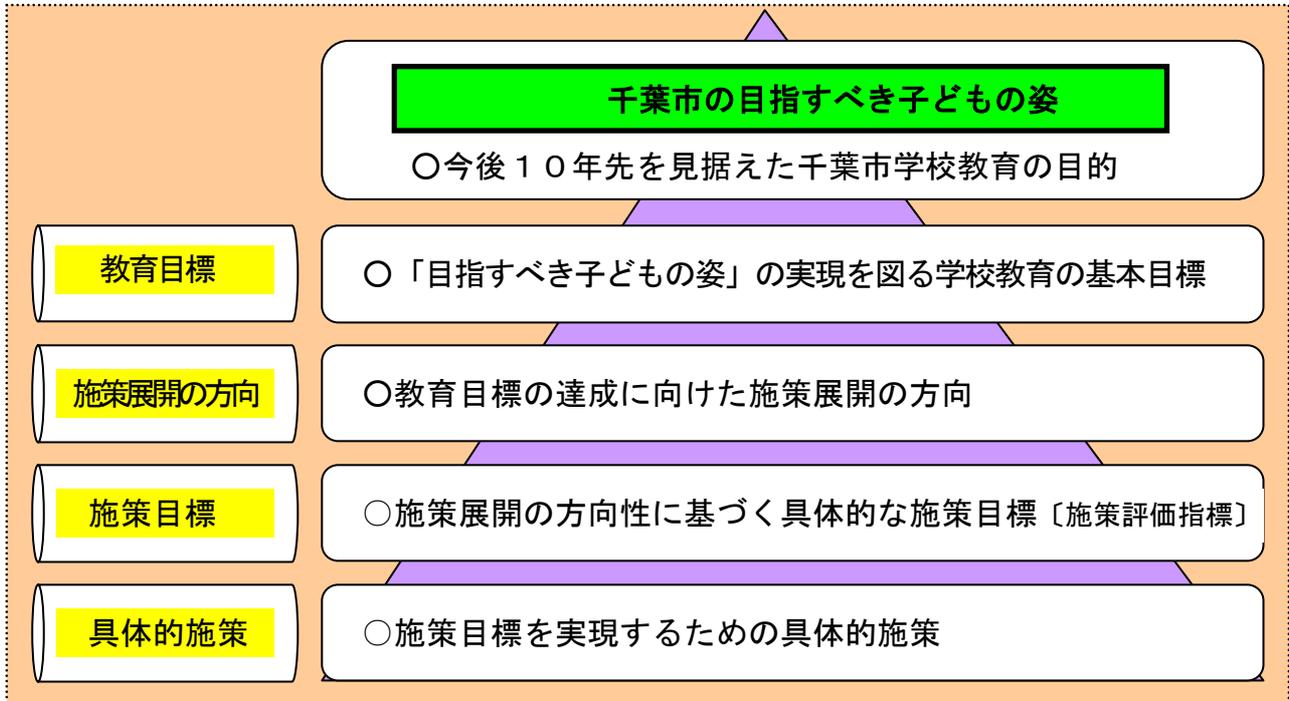
社会全体で連携して教育に取り組むことの必要性を踏まえ、学校・家庭・地域・行政がそれぞれの役割と機能を再確認するとともに、一体となった取り組みをとおして、より大きな効果を引き出せるよう、連携強化に向けた具体的な手立てを盛り込んだ計画とすること。

□ 点検と見直し

事業評価の視点から、具体的な施策及び施策評価指標等を計画の中に位置づけるとともに、計画の進捗状況の点検と見直しをとおして、更なる工夫・改善を重ねることにより、実効性のある計画とすること。

(4) 施策体系について

市民が共有できるわかりやすい本市学校教育の具体像を示し、「生きる力」の育成に向けて、子どもと教師、保護者、市民が一体となった取り組みができるよう、計画について以下のような体系化を図っていくことが望ましい。



① 千葉市の目指すべき子どもの姿について

「夢と思いやりの心を持ち、チャレンジする子ども」

子どもを取り巻く環境が複雑化・多様化する中で、明確な目的意識を持ったり、何かに意欲的に取り組んだりすることができにくい状況になってきている。意識調査からも、自分の将来像について、「友達や仲間がたくさんいる人」になりたいとする子どもが最も多く、「リーダーとして活躍する人」や「社会の役に立てる人」とする子どもが少ないといった傾向が見られた。

また、学力状況調査からは、目標正答率を上回る良好な結果が得られており、「教科の学習が好き」、「社会に出たときに役立つ」と肯定的に受け止めている割合も高くなっている。その一方で、「勉強する理由」については、「勉強が好きだから」とする割合が小・中・高校生ともに極めて低いことが意識調査で明らかになっており、学習習慣や学習意欲に課題の見られる子どももいる。

さらに、規範意識の希薄化や忍耐力、コミュニケーションの力、社会性に低下傾向が見られるといった声も聞かれる。

こうした子どもの現状を踏まえ、今後10年先を見たとき、将来に夢や希望を持ち、人との豊かなかかわりの中でたくましく成長していくことのできる子ども、そして、目標の実現に向けてねばり強く取り組むことのできる子どもを育てていくことが大切であり、「千葉市の目指すべき子どもの姿」を、「夢と思いやりを持って、チャレンジする子ども」として提言する。

② 教育目標について

「自ら考え、自ら学び、自ら行動できる力をはぐくむ」

ここに示した教育目標は、「千葉市の目指すべき子どもの姿」である「夢と思いやりの心を持って、チャレンジする子ども」の具現化に向け、今後の学校教育の基本となる目標を提示するものであり、「生きる力」をはぐくむという理念の実現を目指すものである。

達成すべき具体的な力として、次のようなものが考えられる。

《自ら考える力》

○将来の生き方について真剣に考える力 ○他者を理解し、他者の立場になって考える力

《自ら学ぶ力》

○興味や関心を持って積極的に学ぶ力 ○ねばり強く課題に取り組む力

《自ら行動できる力》

○的確な判断のもとに進んで行動できる力 ○「シュート」を打つ力（決断力と実践力）

③ 施策展開の方向について

目指すべき子どもの姿」や「教育目標」を達成するため、学校、家庭・地域、行政は、それぞれの役割を踏まえ、

○学校においては、「確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成」について、

○家庭・地域においては、「家庭・地域の教育力の向上」について、

○行政においては、「多様な教育的支援」や「教師の資質向上」、「教育環境の充実」について、今後計画期間内に取り組むべき施策展開の方向性を示していく必要がある。さらに、学校、家庭、地域、行政による一体となった取り組みの重要性を鑑み、「学校・家庭・地域・行政の連携」の視点を施策展開の方向の一つとして位置づけることが大切である。

学校、家庭・地域、行政の役割と施策展開の方向

■学校は…「わかる授業・楽しい教室・夢広がる学校づくり」の更なる充実を図る

学校では、授業の充実等をおして、確かな学力の向上や豊かな人間性の育成、健康の増進と体力の向上など、「生きる力」をはぐくむための取り組みを一層推進していくことが重要であり、その実現に向け、次のような施策展開の方向性のもとに、具体的な施策目標等を定めていくことが望ましい。

◎「わかる授業」を推進し、自ら学ぶ力を身につけさせる

「教師は授業で勝負」を基本に、一人一人の子どもの実態をしっかりととらえ、少人数指導や学習形態の工夫など、指導方法の工夫・改善により、「わかる授業」を実践する。これにより、子どもに学習意欲と基礎的な知識・技能を身につけさせる。

また、科学館、図書館、博物館等を活用した学習の積極的な展開や、思考力・判断力・表現力などを一層高めるための授業づくりにより、子どもに好奇心と主体的な学びの力をはぐくむとともに、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決する力を身につけさせる。

◎社会性を備えた豊かな心をはぐくむ

道徳教育等を通して社会性や豊かな人間性を育てる教育に力を入れていくことにより、子どもに社会の形成者としての自覚と責任感を持って行動する力を身につけさせる。また、地域等との連携を図りつつ、様々な体験活動などをおし、自然や生命の大切さを学び取れるようにするとともに、人を思いやる心や人とかかわる力をはぐくむ。さらに、キャリア教育の充実等をおして、自立意識を育てる。

◎体力を高め、健康な体をはぐくむ

遊びの楽しさを幼児期から感じ取らせるとともに、運動の特性に触れる楽しさや喜びを十分味わうことのできる教育を充実させることにより、運動への意欲を一層高め、体力を高める。また、食育等をおして、健康の保持増進に主体的に取り組む姿勢をはぐくむ。

■家庭・地域は…「明るく・笑顔あふれる、ぬくもりのある家庭・地域づくり」を進める

家庭は、子どもにとっての心のよりどころとして、基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、自立心や忍耐力を育成すること、また、地域は、家庭における子育てや学校での取り組みを支援する中で、子どもを見つめ、励まし、その成長を支えていくことが大切である。そして、それを実現するための施策展開の方向を次のように提言する。

◎家庭の教育力を高め、地域の教育力を生かす

地域や学校、行政による様々な働きかけをおして、家庭において、親子のふれあいを大切にしながら、子どもに自立の基礎となる基本的な生活習慣を身につけさせられるようにする。

さらに、社会生活や集団生活を営む上で必要なルールやマナーの定着は、学校教育のみならず家庭や地域による取り組みによるところが大きいことから、子どもへの声かけや挨拶、親子交流活動などを推進することにより、学校と家庭、地域が一体となって、子どもに社会性をはぐくんでいく。

■行政は…「千葉市らしい夢広がる教育環境」を創造する

行政は、子どもの学びの充実に向け、より安心・安全な学校づくりや教師の資質向上、多様な教育的支援の充実など、質の高い教育環境づくりに向けた取り組みを進めることが重要であり、次のような施策展開の方向性のもとに、具体的な施策等を位置づけていく必要がある。

◎子どもの学びを支える教育環境を整える

学校適正配置の推進や施設設備の整備、科学館・図書館・博物館等の各種教育機関とタイアップした教育や学校間・学校種間の連携による教育の充実などをおして、子どもが、安全な環境の中で安心して学べる教育環境を整える。また、魅力ある学校づくりに向け、各学校において様々な教育活動が展開できるよう、予算的な措置を講じる。

◎意欲あふれる教師を確保するとともに、より魅力ある指導力を持った教師を育てる

意欲ある教師を育て、確保するとともに、ライフステージに応じた研修の更なる充実等を図ることにより、教師が、教育への使命感と熱意を持って子どもの指導を行い、授業力や指導力など、教師としての資質を一層高められるようにする。

また、教師と子ども、教師と保護者、相互の信頼関係のもとに、よりよい教育が実現できるよう、一人一人の子どもと教師がじっくりと向き合えるような環境づくりを進める。

◎「多様な教育的支援を充実させるための教育環境整備を一層進める

発達障害を含む障害のある子どもの教育的ニーズに応じた適切な支援体制を整備することにより、一人一人の子どもに、自立と社会参加の力を身につけさせる。

また、外国人児童生徒や海外帰国児童生徒の増加が予想される中で、こういった子どもたちの教育環境を一層整備するとともに、不登校児童生徒等の学びの機会を充実させる。

■学校・家庭・地域・行政は…

連携と協同、そして力の結集により、教育効果の相乗効果を図る

学校、家庭、地域、行政は、それぞれの役割と機能を踏まえ、「目指すべき子どもの姿」の実現に向けて、相互に心と力を合わせ一体となった取り組みを進めていくことが大切であり、その実現に向けた施策展開の方向を次のように整理した。

◎学校・家庭・地域・行政が一体となって子どもの成長をサポートする

学校、家庭、地域、行政がそれぞれの役割を踏まえ、互いの連携をもとに、地域特性等を生かした特色ある教育活動を進めることにより、子どもに地域への愛着心や誇り、地域の一員としての自覚などをはぐくむ。

また、学校、家庭、地域、行政における様々な取り組みを一層効果的なものにするために、相互の更なる連携・協同に向けた組織体制の構築を図っていく。

「◎」…施策展開の方向

「●」…施策目標

■学校は

○「わかる授業・楽しい教室・夢広がる学校づくり」の更なる充実を図る

◎わかる授業を推進し、自ら学ぶ力を身につけさせる

- 学ぶことの楽しさを教え、自ら意欲を持って学び、追求・探求する子どもを育てる
- 指導方法を工夫し、基礎的・基本的な知識・技能や思考力、判断力、表現力を身につけた子どもを育てる
- 各種教育機関との連携による教育活動の充実を図り、幅広い知識と主体的な学びの力をつける

◎社会性を備えた豊かな心をはぐくむ

- 教育活動全体をとおして、自他のよさを感じ取らせるとともに、人との豊かなかかわりをもとに、社会性をはぐくむ
- 自然体験や社会体験など様々な体験活動をとおして、命を大切にするとともに思いやりの心をはぐくむ
- キャリア教育や国際理解教育等の一層の充実により、将来に夢や希望の持てる子どもを育てる
- 読書活動の更なる充実をとおして、豊かな心をはぐくむ

◎体力を高め、健康な体をはぐくむ

- 運動や遊びへの取り組みを充実させ、体力の向上を目指す子どもを育てる
- 健康教育の充実を図り、心身ともにたくましい子どもを育てる
- 食育の一層の推進により、健全な食生活を営む子どもを育てる

■家庭・地域は

○「明るく・笑顔あふれる、ぬくもりのある家庭・地域づくり」を進める

◎家庭の教育力を高め、地域の教育力を生かす

- 基本的な生活習慣等の定着に向け、教育の原点である家庭の教育力の向上を図る
- 地域ぐるみによる家庭や学校への支援の充実を図る
- 家庭や地域の教育力を生かし、規範意識や公共心の育成に向けた取り組みを充実させる

■行政は

○「千葉市らしい夢広がる教育環境」を創造する

◎子どもの学びを支える教育環境を整える

- より安全な教育環境の中で、子どもが安心して学べる学校づくりを推進する
- 一定の学校規模など、適正配置について地域とともに考え、教育環境の改善を図る
- 「特色ある学校づくり」予算等の学校予算の充実に努め、各学校の多様な取り組みを支援する
- 教育環境の充実に向け、6・3制の弾力化（小中一貫校の導入等）を検討するとともに、学校間及び学校種間の連携の一層の充実を図る

◎意欲あふれる教師を確保するとともに、より魅力ある指導力を持った教師を育てる

- 使命感を持ち、熱意と愛情にあふれる教師を確保する
- 各種研修の充実により、教師としての資質や指導力の一層の向上を図る
- 教師が一人一人の子どもに向き合える環境づくりに向け、外部人材やIT等を活用した学校支援システムを構築する

◎多様な教育的支援を充実させるための教育環境整備を一層進める

- 一人一人の教育的ニーズに対応した特別支援教育推進のための体制づくりを進める
- 不登校児童生徒等の学びの場と機会の充実を図る
- 外国人児童生徒等の増加など、国際化の進展に対応した教育機会の充実を図る

＜目指すべき子どもの姿＞

『夢と思いやりの心を持ち、チャレンジする子ども』

＜教育目標＞

自ら考え、自ら学び、自ら行動できる力をはぐくむ

■学校・家庭・地域・行政は

○連携と協同、そして力の結集により、教育効果の相乗効果を図る

◎学校・家庭・地域・行政が一体となって、子どもの成長をサポートする

- 学校・家庭・地域・行政がそれぞれの役割を踏まえ、相互に連携することにより特色ある学校づくりを進める
- 地域の教育資源と力を取り込む仕組みづくりを進める

⑤施策展開の方向と施策目標及び重点的に取り組むべき事項

《「確かな学力」の育成にかかる施策展開の方向》

◎『「わかる授業」を推進し、自ら学ぶ力を身につけさせる』

□施策目標及び重点的に取り組むべき事項

- 学ぶことの楽しさを教え、自ら意欲を持って学び、追求・探求する子どもを育てる
 - 課題解決学習や体験的な学習の一層の充実による、一人一人が「わかった、できた」と思える授業づくり
 - 学習習慣の定着と学ぶ意欲の向上
- 指導方法を工夫し、基礎的・基本的な知識・技能や思考力、判断力、表現力を身につけた子どもを育てる
 - 基礎的・基本的事項の定着に向けた指導方法の工夫・改善
 - 一人一人の個性や能力に応じた指導の充実
 - 思考力や判断力、表現力の向上に向けた授業改善
 - ICT活用教育の推進と情報活用能力の育成
- 各種教育機関との連携による教育活動の充実を図り、幅広い知識と主体的な学びの力をつける
 - 科学館や図書館、博物館等、各種教育機関等を活用した授業の積極的な展開

【課題】



- 子どもが「わかった、できた」と思える授業づくり
- 一人一人の学習意欲の一層の向上
- 思考力・判断力・表現力等をさらに高めるための授業改善
- 情報教育の一層の推進

【現状】



【千葉市の子ども状況】

「千葉市学力状況調査」の結果では、本市の子どもの平均正答率は、調査を実施したすべての学年において、すべての教科にわたり目標正答率をほぼ上回っており、良好な結果である。また、本市の学力状況調査及び全国学力・学習状況調査においても、「教科の学習が好き」「社会に出たときに役立つ」と肯定的に受け止めている子どもの割合が全国平均と比べて高くなっている。さらに、別の調査からは、子どもの読書量も全国平均を大きく上回る結果を得ている。

一方で、学年が進むにつれて、「勉強がわかる」・「教科の勉強が好き」とする子どもの割合が減少する傾向があり、学習意欲や学習習慣に課題のある子どもも見られる。

学校教育に関する意識調査からは、「勉強する理由」として、多くの子どもが「わからなかったことがわかるようになるから」、「将来役に立つから」など、自分なりの考えを持っているものの、「勉強が好きだから」とする回答は小・中・高校生ともに極めて低くなっている。また、「先生に期待すること」として、小・中学生では「わかりやすい授業」と回答している割合が最も高くなっている。

【主な施策展開の現状】

- 「わかる授業づくり」の推進（千葉市学力状況調査の実施、学習支援員・少人数指導教員の配置）
- 理数科教育の充実（理科支援員の配置）
- 情報教育の推進（情報教育コンテンツの開発、校内LANの整備と情報セキュリティ対策の推進）
- 国際理解教育の充実（小学校英語活動の実施、外国語指導助手の配置、外国人児童生徒指導協力員の派遣）
- 学校図書館指導員の配置

《「豊かな心」の育成にかかる施策展開の方向》

◎「社会性を備えた豊かな心をはぐくむ」

□施策目標及び重点的に取り組むべき事項

- 教育活動全体をとおして、自他のよさを感じ取らせるとともに、人との豊かなかかわりをもとに、社会性ををはぐくむ
 - 子どもが自らの可能性を発見し、伸張できるような経験の場や活動の機会の充実
 - 道徳的実践力や社会性の育成に向けた人と人との豊かな交流の機会の充実
- 自然体験や社会体験など様々な体験活動をとおして、命を大切に作る心や思いやりの心をはぐくむ
 - 動植物の飼育・栽培、各種ボランティア活動など、様々な自然体験や社会体験等の充実
 - 互いに思いやる心やコミュニケーションの力をはぐくむ教育の推進
 - いじめ問題への取り組みの充実
- キャリア教育や国際理解教育等の一層の充実により、将来に夢や希望の持てる子どもを育てる
 - 一人一人の自己実現に向けた、発達段階に応じたキャリア教育の推進
 - 郷土への理解や誇り、国際協調の精神などをはぐくむ機会の充実
- 読書活動の更なる充実をとおして、豊かな心をはぐくむ
 - 学校図書館指導員等を活用した読書指導の充実
 - 朝読書等による、充実した読書活動の展開

【課題】



- 道徳教育の一層の充実
- 体験活動を通じた交流の機会の充実
- 教育相談の一層の充実
- 相手を思いやる心や自らの考え・意見を表現する力などをはぐくむ機会の充実
- キャリア教育の一層の推進

【現状】



【千葉市の子ども状況】

学校教育に関する意識調査から、「学校生活が楽しい」と感じている子どもが多く、自分自身について肯定的に捉えている子どもも多い。一方で、「注意に対して無視したり反抗したりすること」や「友達の悪口を言ったりいじめたりすること」、「約束やルールを守らないこと」などを友達がすることについて、「別に構わない」と回答した子どもも見られる。また、「人と人とのかかわりがうまく築けない」、「我慢強さに欠ける」といった声も各方面から聞かれる。さらに、ここ数年の様子から、不登校の子どもやいじめの件数にわずかながら増加傾向が見られる。

【主な施策展開の現状】

- 体験的学習機会の充実（農山村留学、移動教室、げんきキャンプ、自然教室 等）
- 学校図書館教育の充実
- 教育相談の充実（スクールカウンセラーの活用、スーパーバイザーの配置、「いじめ24時間電話相談」による対応、適応指導教室の運営）
- 特色ある学校づくりの推進（「特色ある学校づくり推進事業」予算の活用）

《「健やかな体」の育成にかかる施策展開の方向》
◎「体力を高め、健康な体をはぐくむ」

□施策目標及び重点的に取り組むべき事項

- 運動や遊びへの取り組みを充実させ、体力の向上を目指す子どもを育てる
 - 幼児期からの遊びに触れる機会の充実
 - 進んで運動に親しみ、体力の向上を目指して取り組む機会の充実
- 健康教育の充実を図り、心身ともにたくましい子どもを育てる
 - 健康で安全な生活を営むために必要な生活習慣の形成
 - 自身の健康の保持増進を図る能力や態度をはぐくむ機会の充実
- 食育の一層の推進により、健全な食生活を営む子どもを育てる
 - 正しい食事のあり方や望ましい食生活の定着に向けた食育の推進

【課題】



- 規則正しく望ましい生活習慣の定着
- 豊かで健全な食生活の実現
- 運動や遊びをとおした体力の向上
- 健康で安全な生活を営むための自己管理能力の育成

【現状】



【千葉市の子ども状況】

全国的な調査結果と比較すると、朝食を摂る子どもが多く、体力・運動能力の面でも多くの内容で上回っている。その一方で、中学生の持久力・筋力については、県や全国平均をやや下回っている。また、運動等に最後まで粘り強く取り組むといった姿勢に欠ける子どもや、規則正しい生活習慣が身についていない子どもも見られる。

【主な施策展開の現状】

- 体力・運動能力調査、小学校運動能力検定の実施
- 学校体育実技指導協力者派遣事業の実施
- 各種大会・発表会の開催
- 中学校運動部活動の充実と民間指導者派遣事業・専門的指導者派遣事業の実施
- 学校・地域保健連携事業の実施
- 地産地消の取り組みの推進

《「家庭・地域の教育力」の向上にかかる施策展開の方向》

◎「家庭の教育力を高め、地域の教育力を生かす」

□施策目標及び重点的に取り組むべき事項

- 基本的な生活習慣等の定着に向け、教育の原点である家庭の教育力の向上を図る
 - 家庭が、その役割と機能を再確認できるようにするための学校、行政による取り組みの推進
- 地域ぐるみによる家庭や学校への支援の充実を図る
 - 放課後の居場所づくり、子どもの安全を見守る活動など、地域と一体となった教育活動の展開
- 家庭や地域の教育力を生かし、規範意識や公共心の育成に向けた取り組みを充実させる
 - 子どもへの挨拶や声かけの実施、ルールやマナー意識をはぐくむ交流活動等、家庭・地域と連携した教育活動の展開

【課題】



- 基本的な生活習慣の定着に向けた家庭の教育力の向上
- 家庭や学校支援に向けた地域の教育力の一層の活用
- 規範意識や公共心の育成に向けた家庭と地域による取り組みの強化

【現状】



【千葉市の状況】

保護者を対象とした意識調査から、子どもの「健康状態」や「興味関心のあること」に関する理解は高いものの、「将来の夢や進路」、「悩み」といった、いわば内面にかかわる内容についての理解は低いことが明らかになった。また、約95%保護者が、家庭の役割について「規律ある生活や基本的な生活習慣や忍耐力をはぐくむ場」であるとしながらも、一方で「学校でもしつけやマナー教育を行ってほしい」とする割合もかなり高くなっている。さらに、親や大人のモラルの低下、認識不足を指摘する声も多く聞かれる。

地域の役割についての調査では、「地域でできるもの」として、保護者、市民ともに「子どもへの挨拶」や「ルールやマナーを守らない子どもへの注意」が、他の項目を大きく上回る結果であった。また、地域で子どもたちが安心して遊んだり生活したりできる場や様々な実体験をする場が減少しており、社会性を身につける機会が減っているとの指摘もある。

【主な施策展開の現状】

- 生活習慣の定着に向けた家庭への啓発
- 学校セーフティウォッチャーによる登下校の安全の見守り
- 「楽しい教室づくり」推進事業（授業等での地域の高齢者の活用）の展開
- 放課後子ども教室の実施

《「教育環境の充実」にかかる施策展開の方向》
◎「子どもの学びを支える教育環境を整える」

□施策目標及び重点的に取り組むべき事項

- より安全な教育環境の中で、子どもが安心して学べる学校づくりを推進する
 - 自分の身は自分で守ることを基本とした安全教育の充実 ○児童生徒の個人情報保護のためのセキュリティ対策の充実
 - 校舎の改修や改築、耐震補強等の計画的推進など、子どもが安心して学び、活動できる教育環境の一層の充実
- 一定の学校規模など、適正配置について地域とともに考え、教育環境の改善を図る
 - 学校の小規模化や大規模化による教育環境の不均衡の是正
 - 統合校の教育環境の充実（少人数学級等）
- 「特色ある学校づくり」予算等の学校予算の充実に努め、各学校の多様な取り組みを支援する
 - 学校や地域の実態を生かしたより魅力ある学校づくりの推進
 - 「特色ある学校づくり」予算等の更なる充実
- 教育環境の充実に向け、6・3制の弾力化（小中一貫校の導入等）を検討するとともに、学校間及び学校種間の連携の一層の充実を図る
 - 6・3制の弾力化の検討及び幼・保・小関連教育や小・中連携教育の推進等、学校間、学校種間による連携・交流の充実
 - 学びの機会を深め、広げるための科学館や図書館、博物館等とタイアップした教育の推進

【課題】



- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 子どもが安心して学べる学校施設・設備の整備 | <input type="checkbox"/> 教育の質の充実を図るための教育環境づくり |
| <input type="checkbox"/> 学びの充実に向けた各種教育関係機関との連携 | <input type="checkbox"/> 幼少期からの教育の連続性の重視 |

【現状】



【千葉市の教職員の状況】

多くの小・中学校で小規模校化が進む一方、地域によっては大規模校化している学校が出てきており、学校間における教育環境の不均衡や小規模校化や大規模校化による教育上・学校運営上の様々な課題が生じてきている。さらに、校舎の老朽化や耐震補強の必要性など、安全な教育環境の整備が課題となっている。

また、子どもの様々な学びの機会を充実させるため、平成19年4月には、本市初の中・高一貫校を開校するとともに、幼児期における教育と小学校教育との連携や、小・中学校間の連携による教育に取り組んでいる。

【主な施策展開の現状】

- | | |
|--|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 耐震補強工事の計画的実施、校舎の増改築 | <input type="checkbox"/> 防犯カメラの設置 |
| <input type="checkbox"/> 教材教具の整備 | <input type="checkbox"/> 学校適正配置の推進 |
| <input type="checkbox"/> 幼・保・小関連教育、小・中連携教育の推進 | <input type="checkbox"/> 中・高一貫教育校の導入 |
| <input type="checkbox"/> 「特色ある学校づくり」に向けた校長裁量予算（一校平均300万円）の活用 | |

《「教師の資質向上」にかかる施策展開の方向》

◎「意欲あふれる教師を確保するとともに、より魅力ある指導力を持った教師を育てる」

□施策目標及び重点的に取り組むべき事項

- 使命感を持ち、熱意と愛情にあふれる教師を確保する
 - 教育者としての使命感を持った、より熱意と愛情のある人材の確保
 - 教職インターンシップ等の充実や採用選考方法の工夫改善
- 各種研修の充実により、教師としての資質や指導力の一層の向上を図る
 - 教師のライフステージに応じた研修の一層の充実
 - 教師としての資質力量の向上に向けた校内研修の充実
- 教師が一人一人の子どもに向き合える環境づくりに向け、外部人材やIT等を活用した学校支援システムを構築する
 - 外部人材の活用や教務・事務の情報化などによる教師の多忙化解消に向けた体制づくり

【課題】



- 意欲ある教師の育成と確保
- 教師が子どもの指導に専念できる環境の整備
- ライフステージに応じた研修内容・方法の工夫・改善
- 教師の優れた教育実践の普及

【現状】



【千葉市の教師の状況】

校内研修をはじめ、各種研修会や講座等に積極的に参加し、指導力の向上や指導方法の工夫改善に熱心に取り組んでいる。また、ライフステージに応じた研修に取り組むとともに、本市独自に実施している「内地留学」や「現場研究」等にも多くの教師が意欲的に取り組んでいる。

一方で、学校教育に関する意識調査からは、様々な個性を持った子どもの指導や保護者への対応、授業以外の業務等により、多忙感を感じている教師が多いことが明らかになっている。

【主な施策展開の現状】

- 優れた教員の確保と適正配置
- 特別非常勤講師の採用と配置
- 中学校教科担任教員の確保と適正配置
- 教員インターンシップ制度の導入
- 基本研修・専門研修の充実
- 初任者研修・10年経験者研修等の充実
- 教員研修検討委員会による研修体系の見直し
- 研究学校、研究推進校等の指定
- 今日的な教育課題に関する開発的研修
- 千葉市教育研究会との連携
- 教育課題、教育の諸条件等に関する調査研究
- 教員教育研究発表会の開催
- 千葉市教育研究奨励賞の授与

《「多様な教育的支援」にかかる施策展開の方向》

◎「多様な教育的支援を充実させるための教育環境整備を一層進める」

□施策目標及び重点的に取り組むべき事項

●一人一人の教育的ニーズに対応した特別支援教育推進のための体制づくりを進める

- 養護教育センターを中心とした、特別支援学校と小・中学校との連携教育の一層の推進
- 継続的な教育の推進を図るための後期中等教育の充実

●不登校児童生徒等の学びの場と機会の充実を図る

- 中学校教育を受けたいとする者への教育機会の提供
- 不登校児童・生徒の学校復帰に向けた学びの機会の充実

●外国人児童生徒等の増加など、国際化の進展に対応した教育機会の充実を図る

- 外国人児童生徒等の教育環境の整備
- インターナショナルスクールとの連携

【課題】



□特別支援教育の充実

□学びたい生徒等を対象とした学習機会の保証

□外国人児童生徒等の増加など、国際化の進展に対応した教育の充実

【現状】



【千葉市の状況】

現在、小学校40校、中学校18校に特別支援学級を設置し、知的障害や情緒障害、言語・難聴障害についての指導を行うとともに、LD等通級指導教室を小学校5校に設置している。さらに、養護教育センターが中心となり、二つの市立特別支援学校と連携し、各学校への支援等を行っている。一方で、通常の学級に在籍する障害のある子どもへの支援の充実や高等部進学者の増加への対応等について、今後も検討が必要な状況である。

また、海外からの帰国者や外国籍児童生徒の中で、あるいは不登校等の理由から十分な中学校教育を受けられなかった者の中で、中学校教育を受けたいとする者が少数ながら存在する。さらに、約半数の小・中学校に、帰国児童生徒や外国籍児童生徒が在籍しているといった状況も見られる。

【主な施策展開の現状】

○学校訪問相談員の派遣や特別支援教育指導員の配置等を通じた教育支援体制の整備・充実

○特別支援教育の理解を図る教職員研修の実施 ○特別支援学級等の施設・設備、備品等の整備充実

○外国人児童生徒指導協力員の派遣

《「学校・家庭・地域・行政の連携」にかかる施策展開の方向》

◎「学校・家庭・地域・行政が一体となって、子どもの成長をサポートする」

□施策目標及び重点的に取り組むべき事項

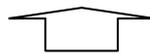
●学校・家庭・地域・行政がそれぞれの役割を踏まえ、相互に連携することにより特色ある学校づくりを進める

- 地域人材（保護者、地域の高校生・大学生を含む）や地域環境等を総合的に活用した特色ある学校づくりの推進
- 特色ある学校づくりの推進に向けた地域人材バンクの整備と充実

●地域の教育資源と力を取り込む仕組みづくりを進める

- 学校、家庭、地域、行政のそれぞれの取り組みを一体化するシステムづくり

【課題】



□家庭・地域と連携した特色ある学校づくりの一層の推進

□学校、家庭、地域、行政が一体となって子どもを育てるための協力体制の構築

【現状】



【千葉市の状況】

学校は、学校経営の方針や重点、経営の実際と課題等について、学校評議員制度等を活用するなどして、広く家庭や地域社会への呼びかけ等を行うとともに、地域人材等の地域環境を活用した特色ある学校づくりを進めている。また、多くの保護者は、学校教育活動における様々なボランティア活動に熱心に取り組んでおり、地域は、子どもの安全の見守りなどに意欲的に取り組んでいる。さらに、教育委員会は、学校・家庭・地域の連携による教育の充実に向け、様々な施策を展開している。一方で、各活動間の役割分担や協力体制について、明確さを欠く場合があるとの指摘もある。

【主な施策展開の現状】

- 約 15,000 人の学校セーフティウォッチャー等による、登下校時の子どもの安全確保
- 子どもの地域に対する理解と愛着を育むための「学校・家庭・地域まちづくり推進事業」への取り組み
- 学校の活性化を図るための学校評議員制度の実施
- 放課後の子どもの居場所を確保するための「放課後子ども教室」の実施
- 学校や地域の特性、人材等を活かした体験的な学習活動による「特色ある学校づくり」の推進
- 10,000 軒を超える「子ども 110 番の家」の設置